

A conceptual image featuring a single pearl resting on a light-colored, veined marble surface. This central scene is viewed through a triangular opening in a dark, draped fabric that frames the composition. The lighting is dramatic, highlighting the pearl and the texture of the marble.

Edition – 存在の本質

Raffiné

序章

なぜ、存在そのものが美を育むのか

見えない根は、大地に深く息づいている。

枝葉は移ろい、花は散り、葉は落ちても ——

根は、存在を静かに支え続けている。

人は、目に見える姿や役割に心を奪われがちだ。
けれど本当の美は、見えない根に宿っている。

その根こそが、人間性の基盤であり、
美の根源である。

存在は、
美の根源である。



新しい季節の土から
小さな芽が静かに顔を出す

第一章

根源としての存在

私たちはしばしば、肩書きや成果で自分を測ろうとする。

「何を持っているか」
「何を成し遂げたか」

が価値を決めるように感じるからだ。

けれど、ふとした姿勢や話し方、誰かを思いやる眼差し――

そうした一瞬ににじみ出るものこそ、
あなたの存在の根を映している。

根が深い木は、嵐にあっても倒れない。

人も同じだ。

見えない根を持つ人は、
揺らぎの中でも静かに立ち続けている。

存在は、外から与えられるものではなく、
内に育つ根から広がっていく。

根があるから、
存在は揺るがない。



夏の気配をまとめて

大地に根を張った木が
静かに息づいていく

あなたの存在を支えている根は
どこにありますか——

第二章

脆さと強さ

人は誰しも、脆さを抱えている。

弱さを隠そうとするとき、
かえって心は硬くこわばり、息が詰まってしまう。

けれど、枝から葉が落ちるように、
揺らぎを受け入れたとき、
それはやがて大地に還り、次の力を育てていく。

涙を流した夜も、迷いに立ち止まった時間も――


その経験があるからこそ、
他者の痛みに寄り添える強さが生まれる。

脆さは恥ではない。

欠けを抱きしめることが、存在を深くしていく。

A black and white photograph of a dark, draped fabric, possibly silk or satin, with a visible tear or frayed edge. The fabric is draped in a way that creates deep folds and highlights, emphasizing its texture and the sharpness of the tear. The lighting is dramatic, with strong highlights and deep shadows.

脆さは、
強さを映す鏡である。



落ち葉が風に舞い
静かに大地へ還っていく

あなたは自分の脆さを
どのように抱きしめていますか ——

第三章

共鳴としての存在

人は、一人だけでは輪郭を結べない。

誰かの声に耳を澄ますとき。
ふとした視線を受け止めるとき。
沈黙を分かち合うとき。

その瞬間に、内側が静かに波立つことがある。


迷いや矛盾を抱えながらも、
人間性は交わりのなかで育まれていく。

共鳴は同じになることではない。
違いを受け入れながら響き合うとき、
根はさらに深く、芽は確かに光へと向かう。

人は互いに響き合いながら、
その輪郭を少しずつ確かにしていく。



存在は、他者との共鳴により
輝きを増す。



雪の静けさの中で
枝先は光の気配をそっと抱いている

あなたの存在は 誰と共鳴し
どこへ響いていくでしょうか ——

終章

内なる光が未来を導く

美しさは、未来のどこかに用意されているものではない。
すでに、あなたの内側で静かに息づいている。

役割や環境に揺らぐときも、
その光は見失われることない、
根のように深く、あなたを支えている。

内にある光に気づき、
その導きを信じて歩みを重ねるとき——

未来は外から与えられるのではなく、
あなた自身の存在によって切り拓かれていく。



いま あなたの存在の光は
未来をどう切り拓いていくだろうか ——



R.

Edition — 存在の本質

著者：美学思想家 古川玲奈

発行：Raffiné

2026